

JICA-CM4TIP 通信

No.12/2016.6.20

- チェンライ県のラオス・ミャンマー国境における活動
 - ボケオ県 MDT 参加型ワークショップ / 中国での人身取引被害者
 - BCATIP 会議 / タチレク県 MDT との初会合 / 課題
- タイ反人身取引デー

タイ・メコン地域人身取引被害者支援能力向上プロジェクト

- ◇ タイおよびメコン地域において人身取引被害者に対する支援対策が効果的に行われるために、JICA では被害者保護・自立支援に協力します。
- ◇ 当プロジェクトは 2015 年 4 月から 4 年間の予定で、人身取引被害者の生活再建支援のため、ケースマネージャー（CM）等の能力向上や被害者のエンパワメント、周辺国との協働を目指す活動を実施します。

CM4TIP : Case Management for Trafficking in Persons の意味。
詳細は HP (<http://www.jica.go.jp/project/thailand/016/index.html>) をご覧ください。

チェンライ県のラオス・ミャンマー国境地域における活動

- 5 月 30-31 日に、ラオス・ボケオ県の人身取引対策 MDT メンバー（ボケオ県 MDT）を対象に参加型ワークショップを行いました。
- 6 月 2-3 日に、ミャンマー・タチレク県とチェンライ県 MDT との人身取引対策国境協力会議（BCATIP）に続き、「国境の山岳民族と人身取引」ワークショップ開催



④ ボケオ MDT ワークショップ風景
⑤ BCATIP 会議議長、⑥ チェンライタチレク MDT ワークショップ

ボケオ県 MDT との参加型ワークショップ

本プロジェクトが最初にボケオ県 MDT を対象にワークショップを行ったのは 2015 年 8 月です。そのワークショップは、チェンライ県 MDT と合同で行ったため、ボケオ県の人身取引対策状況を的確に把握することができませんでした。今回は、参加型手法を使つてのワークショップを試みました。

今回のワークショップに参加したメンバーは 17 人で、警察、教育、保健、労働社会福祉、女性連盟、女性の地位向上委員会、青少年連盟、労働組合連盟、外務担当者などでした。これらのメンバーは人身取引対策活動の担当ですが、人事異動も頻繁にあることによって、人身取引に関して知識が全くない人が半数以上いるので、人身取引の定義から説明して、「被害者」「非正規国外労働者」「ハイリスクグループ」に分けて、身の回りにどのような人身取引リスクがあるかを認識しながら、同県の人身取引状況を把握し、各機関が人身取引対策に関してどのような役割と責任があり、どのような資源があるかを特定しました。

ラオスのボケオ県の状況

CM4TIP 通信の第 5 号でも紹介しましたが、ラオスのボケオ県はタイのチェンライ県とミャンマーのタチレク県と国境を接しています。ボケオ県のトンブン郡はゴールデン・トライアングル経済特別区で、一部の土地は中国に貸し出され、カジノ、中華街が建設されています。近年、ラオスの国道 3 号線が整備され、ボケオ県から中国雲南省シーサンパンナ自治州の中心都市景洪まで 3 時間程度で行けることからカジノには中国人客が多いそうです。また、中国資本のバナナ農園もあり、ここでは過剰な農薬使用により住民に健康被害が出ています。タチレク県 MDT メンバーによると、この経済特別区では 2 万人のミャンマー人が働いているそうです。



中国での人身取引被害者

ボケオ県における人身取引被害者はタイで被害に遭い、タイ政府によって人身取引被害として認定されている被害者のみでした*1。しかし、今回のワークショップで女性連盟及び女性の地位向上委員会

(Commission for the Advancement of Women) の職員から中国に売られた 11 人の女性のうち 10 人を保護したとの報告がありました。中国に行った娘の両親から女性連盟が連絡を受けボケオ県の警察にリファーし、ボケオ県警察が中国側警察と連携し、10 人のラオス人女性を救出したとのことでした。

彼女たちの社会復帰支援について聞いたところ、初めてのケースなのでこれから考えるとのこと。このケースで連携した MDT メンバーは女性連盟、女性の地位向上委員会、警察の 3 機関だけでした。

ボケオ県の MDT メンバーは人身取引対策の経験が殆どなく、県内には公的な保護施設も無く、人身取引対策活動をしている NGO もありません。従って、中国で被害に遭った女性たちはそのまま家に帰されるだけである可能性が高いです。(次頁へ続く)

註 *1: 人身取引被害者とは、政府に認定されて初めて人身取引被害者となります。ラオスの人身取引被害者のほとんどはタイ政府によって人身取引被害者として認定された人々です。



プロジェクトで作成のガイドラインを手にするプラユット首相(左)、
アワル社会開発人間安全保障大臣(中央)と百生チーフアドバイザー

タイ反人身取引デー にプラユット首相と 百生チーフが対面



チェンコンでのチェンライ県反人身取引デー活動では、ミャンマー・タチレク
県とラオス・ボケオ県からの来賓と共に、チェンライ県知事が宣言

我々のプロジェクトでは、人身取引被害者の社会復帰を支援することを目的としていますが、ボケオ県に被害者を一時的に預かり、サービスを提供することのできる施設や資源ありません。このような状況の中、今後の動向を追い、プロジェクトとしてどのような支援ができるか考えていきたいと思っています。

チェンライ-タチレク BCATIP 会議

チェンライ県とミャンマーのタチレク県は 2012 年以來人身取引対策国境協力会議(Border Cooperation on Anti-Trafficking in Persons: BCATIP)を開催しており、今回は第 9 回目の会合でした。チェンライ県側は社会開発人間安全保障事務所、人身取引被害者用シェルター、警察、労働、病院などから 17 人が参加し、タチレク県からは警察、郡役場、入国管理、シェルター、ミャンマー女性連盟など 14 人が参加しました。BCATIP では、①ミャンマー人労働者の労働許可証取得のための新しい手続の説明、②チェンライの人身取引被害者シェルターにいるミャンマー人被害者の引き渡し、③大人の同伴がない 15 歳未満の子どもへの国境渡航証を発給停止、④物乞いの取り締まり、⑤タイの人身取引対策法の改正点について、など多岐にわたる項目が議論されました。

タチレク県 MDT と初会合

BCATIP の翌日の 6 月 3 日は、本プロジェクト主催のワークショップでした。本プロジェクトとしてタチレク県 MDT との活動は初めての事です。我々は、事前にチェンライ県社会開発人間安全保障事務所と相談して、「国境の山岳民族と人身取引」というテーマでワークショップを開催しました。今年からミャンマーとラオスと国境を接するチェンライ県の 2 郡の山岳民族

のリーダーに人身取引対策の研修を行うので、第 1 回目のテーマとしてふさわしいと考えての選択でした。タイ側の国境地域に住む山岳民族はタイ語を解さない人も多く、行政サービスに関する理解が低いことから、教育、保健などのタイ政府のサービスを受用できていない人が多くいます。その中には国籍をもたない人もいます。また、そのような脆弱な立場にあるため、人身取引被害に遭う可能性も高いのです。チェンライ県には山岳民族の子どもの教育支援を行う NGO は沢山ありますし、暴力被害にあった女性たちを保護するシェルターもあるので、それらの団体の情報もタチレク側と共有しました。ミャンマー側からもいくつかの山岳民族に対して人身取引の予防啓発活動を行っているなどのコメントやタイに渡り人身取引被害に遭いそうになった山岳民族の女性をタイ警察と連携して救出した例も挙げられました。

今回の BCATIP とワークショップを通して、タチレク県 MDT のミャンマー人労働者保護に対する熱心な姿勢をみる事ができました。タチレク県の警察は、タイ・メーサイ郡で働くミャンマー人労働者やその雇い主に対しても労働者の保護に関する法律について周知徹底してほしいとチェンライ側に要請をしていました。昼食時には、ラオスのボケオ県でミャンマー人が労働被害に遭っているという農園の雇用主の中国人と交渉したという話も聞くことができました。

ラオス・ミャンマー側での課題

ボケオ県 MDT とタチレク県 MDT とワークショップを行いました。両県ではプロジェクトがそれぞれ MDT にたいして研修を行うことで、啓発

活動や救出活動ができて、その次のプロセスである社会復帰支援に関する資源がほとんどありません。社会復帰支援には保護施設も必要です。しかしながら両県では、被害者に寄り添うソーシャルワーカーなどの人材も必要ですし、被害に対する賠償金を得るために検察や弁護士など様々な資源が必要ですが、そのどれもが大幅に不足しています。タイの場合は、それらの資源は存在するので質の向上を行えばいいのですが、両県はそうはいかないのが悩みどころです。

タイ反人身取引デー

6 月 8 日はタイの反人身取引法(2008)の制定を記念し国家反人身取引デーに定められており、各地で関連イベントが開催され、当プロジェクトも参加しました。

チェンライ県反人身取引デー@ チェンコン郡に参加(6/1,2)



ボーイスカウト、サイクリングクラブとハレド(6/1)

タイ反人身取引デーイベント @首相官邸への出展(6/6)



フェーズ 1 初代プロジェクトマネージャーのヤニさんと